

普及項目	漁業技術
漁業種類等	漁船漁業、養殖業
対象魚類	-
対象海域	八代海、天草海

スマート水産業の取組支援

天草広域本部水産課・津方 秀一

【背景・目的・目標（指標）】

スマート水産業とは、AI（人工知能）や ICT（情報通信技術）・ロボット等の先進技術を活用して、水産資源の持続的な利用や水産業の成長産業化を実現する取組みである。

本県の天草地域においても、令和6年度（2024年度）から水産庁のスマート水産業推進事業を活用して、漁業者自らがスマート機器を導入して漁業・養殖業の生産性向上を図り、魚価経営の安定化に繋げる取組みがスタートした。

そこで、水産業普及指導員を中心に事業の伴走者となり、漁業者への情報提供、スマート化取組計画策定、導入後のサポート、取組成果の評価を実施することとなった。

事業初年度となる令和6年度（2024年度）は、申請から機器導入まで、申請者（漁業者）を一貫してフォローアップし、事業の年間スケジュールや課題等を掌握することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

スマート機器の「自動観測機器」の導入を要望する真珠養殖3業者、「魚群探知機」や「潮流計」等を要望する漁船漁業16業者、「魚体重測定カメラ」を要望する魚類養殖4業者に対し、関連機器業者と連携し、事業の伴走者として事業内容及び申請方法についての説明会を開催した（図2）。

また、漁業者から操業の実態、機器導入効果など個別にヒアリングを実施し、各事業者の事業申請に向け、指導・助言を行った。

また、事業採択後のフォローアップとして、機器導入時の立会や、県立天草拓心高等学校マリン校舎で実施された漁業者によるスマート水産業に係る出前授業において、アドバイス等を行った（図2、3）。

【成果・活用】

令和6年（2024年）10月、真珠養殖3業者、漁船漁業9業者、魚類養殖3業者が事業採択された。

今後、スマート化の効果を評価するため、事業者への聞き取り調査を行い、導入前後を定量的に比較検討する。

また、先進事例視察会等に積極的に参加し、今後本県に有用なスマート機器の把握に努め、管内の漁業者に情報提供していくなど、スマート化の更なる発展を目指し普及活動を実践していく。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図1 スマート機器の漁業者説明会



図2 スマート機器（左から「自動観測機器」、「魚群探知機」、「魚体重測定カメラ」）



図3 熊本県立天草拓心高等学校マリン校舎での漁業者による出前授業